

「とやま新時代」を創る 次なる挑戦!!

永森 直人

富山県議会通信

Challenge spirit Vol.9

平成27年3月号
(H27.3発行)

ご挨拶

祝 北陸新幹線開業!

3月14日、県民の半世紀近い悲願であった北陸新幹線が開業しました。

東京、大阪、名古屋と等距離に位置する地理的優位性や世界に開かれた伏木富山港など富山県の強みを発揮する舞台が整い、日本海側随一の拠点都市を目指しての富山県の次なる挑戦が始まります。

今後とも、そうした新しい時代にふさわしい新しい地方政治をつくるために、未来に対し責任をもって取り組んでまいりますので、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



永森直人の「とやま新時代ビジョン」

●富山の個性を生かした経済基盤の確立

新たに開通した北陸新幹線の開業、成長を続ける富山新港などの交通インフラをさらに伸ばし、日本海側の拠点都市としての地位を確かなものとし、県民の暮らしを支える経済基盤を確立します。

●富山から発信!新しい地方都市のかたち

地方にこそ日本の真の素晴らしさがあります。豊かな自然、農業など地域に根差した文化を守り、育てていきます。

●安心な地域社会の実現

人口減少、少子化、高齢化という時代の中で安心して暮らせる医療介護の環境整備や子育て支援策に取り組みます。

平成27年2月定例県議会では、こうした3つの基本政策をもとに一般質問をしました。その一部を裏面に掲載していますのでご覧ください。

富山県議会議員 永森 直人 (ながもりなおと)

〈略歴〉

昭和50年1月20日生まれ(40歳)
高岡南高校、東京都立大経済学部卒業
住 所 射水市三ヶ
家 族 妻、長男、次男(ともに小学生)と4人暮らし
平成9年4月 富山県庁入庁
ロシア・ウラジオストク派遣留学、広報課、
高齢福祉課主任などで各種施策に取り組む
平成22年9月富山県庁退職
平成23年4月富山県議会議員に初当選

〈主な役職〉

- ・ 自由民主党小杉連合支部 幹事長
- ・ 射水市消防団三ヶ分団長
- ・ 射水市「歴史と文化の薫るまちづくり事業」実行委員長
- ・ 旧北陸道アートin小杉実行委員長
- ・ NPO法人日本応急手当普及員協会顧問
- ・ 小杉ライオンズクラブ所属



永森直人県議会通信 Vol.9 (H27.3月発行) -発行- 自民党富山県議会議員会 永森 直人

〒939-0306 射水市手崎363-1 TEL.0766-55-3533 FAX.0766-55-3577
〒939-0284 射水市新開発475 TEL.0766-52-5266 FAX.0766-52-5268

E-mail nagamori-naoto@vivid.ocn.ne.jp

平成27年2月定例県議会において一般質問に登壇しました

1 富山の個性を生かした 経済基盤の確立を目指して

北陸新幹線の開業後を見据え、富山県の強みをさらに発揮するための環境整備について質問しました。

問▶ 富山ー大阪間、富山ー名古屋間の直通フリーゲージトレインの導入を促進せよ。北陸新幹線の開業により乗り換えが必要となった大阪、名古屋へのアクセス利便性を早期に回復させることは急務である。

答▶ 富山ー大阪間のフリーゲージトレインは北陸新幹線敦賀開業時(平成34年)に、敦賀駅での乗換え利便性の低下を回避するため、大阪までのフル規格整備の暫定措置として導入される。JR西日本は、技術の確立に今後10年かかるとしている。

富山ー名古屋間のフリーゲージトレインは、課題も多く導入は難しいのではないかと考えている。

残念ながら、前向きな答弁は得られませんでした。富山県の交通インフラのさらなる充実のため粘り強く取り組みます！

問▶ 日本海側の物流の玄関口「富山新港」のさらなる活性化に向けハード、ソフト両面の充実を図るべきである。

答▶ 富山新港のコンテナの年間取扱個数は、2年続けて過去最高記録を更新し、現在のヤードは手狭となりつつある。県においては、ヤードを2.7ha拡張することとし、27年度予算で整備費を計上し、今後、2ヶ年で整備を進めていきたい。また、県内企業の東南アジアに向けた輸出貨物の6割以上が太平洋側の港に流れており、伏木富山港を発着する東南アジア向け直行便の開設が必要と考えている。新潟県、鳥取県など日本海側の他県と連携し、新規航路の開設に取り組みたいと考えている。



(2015年3月6日)
北日本新聞にて

2 富山から発信!新しい地方都市のかたち

「地方創生」とは、東京にはなく地方にしかないものを守り、育てていく、そして真の日本の素晴らしさを取り戻すことが原点です。そのひとつの象徴である農業問題を取り上げました。

問▶ 農地中間管理事業について機構集積金に財源不足が懸念されるとの声があり予算確保を国に働きかけるべきである。

答▶ 今後の国からの予算の配分状況によっては、財源がかなり不足し、特に地域集積協力金の支払地域に優先順位をつけて対象を絞らざるを得ないことが生ずる懸念がある。先般、知事から農林水産大臣に、必要な予算の十分な確保を強く要望したところであり、引き続き国に働きかける。

問▶ 中山間地域等直接支払制度の対象とはならないが、中山間地と同様に生産条件の極めて悪い集落に対し、県独自に支援することを検討する必要がある。

答▶ 「多面的機能支払制度」により、地域ぐるみの活動としての畦畔や法面の草刈り、用水路・農道の維持管理等への支援を行い、農業生産活動の継続を図っていただきたいと考えている。地域農業が将来にわたり維持されるよう、取り組んでまいりたい。

前向きな答弁はありませんでしたが、制度の不公平性や矛盾点については石井知事に十分に理解をしてもらうことができました。



3 安心な地域社会の実現

川崎市における中学1年生が殺害された事件を含め、少年少女が被害者となる残酷な事件が後を絶ちません。地域の子供らを社会全体でどう守っていくのか質問しました。

問▶ 子どもたちが被害者となる事件を防ぐために断固たる決意で取り組み。

答▶ 県警本部と各警察署において、人身の安全に関する事に迅速かつ確に対応するためのプロジェクトチームを構築し、子供の身に危害が及ぶおそれのある相談が保護者や学校からなされた場合の対応の徹底を図っている。子供を犯罪被害から守るためには、警察のみならず保護者や学校、自治体等の関係機関、そして地域社会の全ての大人が、その発生を未然に防止するためにそれぞれの役割を果たしていくことが重要である。

提案が形に

新たな地域交通ビジョンの策定へ

北陸新幹線の開業、また北陸本線が第3セクター「あいの風とやま鉄道」に生まれ変わるなど富山県の交通環境が大きく変化することを踏まえ、平成23年6月議会以来、富山県の地域交通政策を根本から見直すべきと提案してきましたが、今議会において、新たな「地域交通ビジョン」を策定することが決まりました。

小杉婦中線(都市計画道路七美太閤山線)、北部線までの側道の先行供用を検討



七美太閤山線完成イメージ図

射水市における都市環状道路で唯一つながっていない七美太閤山線について、この3月23日に旧8号線まで部分供用しました。しかし全線開通となる北部線までの高架化には、なお3年近くの時間を要するとされています。

そこで、高架橋と並行して走る側道を北部線まで先行供用するよう要請したところ、前向きに検討が進められています。もしこれが、実現すれば、27年度中に側道とはいえ、北部線まで道路がつながる可能性があります。

引き続き、調整するとともに強く要望をしていきます。

地域交通ビジョン策定へ

「未来創生戦略」に反映
北陸新幹線開業、旧北陸本線が第3セクター「あいの風とやま鉄道」に生まれ変わるなど富山県の交通環境が大きく変化することを踏まえ、平成23年6月議会以来、富山県の地域交通政策を根本から見直すべきと提案してきましたが、今議会において、新たな「地域交通ビジョン」を策定することが決まりました。

また、このたびは、射水市における都市環状道路で唯一つながっていない七美太閤山線について、旧8号線まで部分供用しました。しかし全線開通となる北部線までの高架化には、なお3年近くの時間を要するとされています。そこで、高架橋と並行して走る側道を北部線まで先行供用するよう要請したところ、前向きに検討が進められています。もしこれが、実現すれば、27年度中に側道とはいえ、北部線まで道路がつながる可能性があります。引き続き、調整するとともに強く要望をしていきます。

(2015年3月6日)
北日本新聞にて